

令和5年度 山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書

1 教育目標（めざす生徒像） (1)幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成 (2)柔軟な思考とためめ実践により、真理を探究する人間の育成 (3)個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成 (4)心身ともに健全で、正義感あふれるたくましい人間の育成	2 めざす学校像 (1)規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する力を育成する学校 (2)基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒の幸せな将来の生き方に向けたキャリア教育を実践する学校 (3)主体性を育て心身の健康増進を図り、安全安心で学び合える学習環境をつくる学校 (4)地域と積極的な交流を図るとともに、地域の活性化に貢献する学校 (5)地域の声を受け止め、時代に適応し将来へとつながる教育改革を進める学校	3 学校経営方針 (1)「いのちをつなぐ」人づくり 自尊感情を高め、多様性や個性を受け止めるとともに、よりよい人間関係を構築し他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ人づくりを行う (2)「学びを生かす」人づくり 自ら考え、主体的に判断し、柔軟かつ的確に課題解決できる人、多様な他者と協働しながら新たな価値を生み出し、学びを幸せな生き方・社会に生かす人づくりを行う (3)「地域をつくる」人づくり 地域を愛し、地域の課題を主体的に捉え、地域の人と協働し、地域の幸せな未来と地域の発展に貢献できる人づくりを行う
--	--	--

【達成度・評価】 A：達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

重点目標	具体的方策と指標・基準等	自己評価		学校関係者評価	
		目標の達成に向けた取り組み状況と分析	達成度 (前年)	成果と課題 次年度に向けた改善策	〔評価〕 (前年)
(1)「いのちをつなぐ」人づくり	① 互いのいのちを尊重する ○いじめ絶無を目指す。 ○良好な人間関係の構築を目指す。	○SNSやいじめに関しては、外部講師の招聘やいじめ相談年2回などを実施し計画的に指導を行った。 ○いじめ等はアンケート後に判明することがあり指導が後手になることがあった。いじめ認定を絶無にすることはできなかった。 ○1学年では年間2回実施予定のGWTを、予定通り実施をした。	B	○いじめとして把握できたものは、面談や学年集会を実施し、迅速且つ継続的に指導できた。 ○生徒指導について今後も難しい案件については、保護者対応は複数で行う。場合によっては外部機関にも相談しながら進める。	B
	② 基本的生活習慣を身に付け、社会の一員としての自覚を深める ○出席率99.5%を目指す。 ○ふれあい指導（年4回）を実施する。 ○SNS関連の問題行動の根絶を図る。 ○18歳成人への対応として選挙や租税等、社会の仕組みを理解する取り組みを実施する。 ○学校行事や生徒会活動への積極的な参加により成人として社会を生きぬく態度を身に付けさせる。	○2学期末現在の全体の出席率97.7%であった。5月から新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、風邪症状の出席停止扱いが無くなり欠席数が多くなった。 ○コロナ禍前に比べ安易に学校を休む生徒が多くなったように感じる。学習の遅れが気になるところである。 ○情報モラルの在り方指導のためSNS講話を2回実施し、さらに学年集会等を実施し規則の遵守と啓蒙を図った。	C	○安易に学校を休んでしまうことがある。欠席が学習や進路にも大きく影響することを日頃から指導するとともに、保護者へ協力をお願いする。 ○SNS関連の取り組みとして、いじめや問題行動の原因となることが多いため、今後も重点的に取り組む。	B
(2)「学びを生かす」人づくり	① 将来にわたって活用できる知識・技能を着実に習得する ○授業評価アンケート（年2回）を行い、わかる授業に努める。 ○一人一台端末を活用した教育活動を実践する。 ○ICT活用の研修会（年2回）と研究授業を開催する。 ○課題研究やプロジェクト学習等で探究的に学ぶ態度と能力を育む教育を実践する。	○授業アンケートを2回実施(7月/12月)し、改善点を見つけ対応することが出来た。 ○ICT活用の校内授業研究を実施し、ICTの活用促進を図り、各教科において効果的な活用方法に務めた。 ○Google Workspaceの研修会を2回実施した。 ○一人一台端末の持ち帰りが徹底できず充電不足が若干見られた。破損等も数件発生した。	B	○ICT機器活用の研修で教員の力量が向上している。研修等を継続していく。 ○新たに始まる「探究的な学習の時間」を充実させ、「課題研究」のさらに発展した取り組みを目指す。 ○生徒のChromebook使用の習慣化を図る。	A
	② キャリア教育を充実させる ○専門学科の学びの価値や役割を認識するために産業視察等を実施する。 ○インターンシップ（2年）を実施する。 ○資格取得や各種検定の推進と合格率向上を目指す。 ○教職員の外部研修への参加を推進する。	○民間企業や農林高等学校の視察、社会人による講話を実施し、働くことの意義や進路意識の向上を図った。 ○2年次は、全員がインターンシップを実施した。3年次は、中長期インターンシップをおこないより専門性の高い業務を体験することができた。 ○各教科、各学科に関連する各種検定の受験を推進し、合格率向上を目指した指導をおこなった。	B	○生徒の進路意識の向上を図るために、企業や上級学校の視察を継続する。 ○パートナーシップ協議会を基軸として、インターンシップ等の就業体験を支援する。 ○資格取得に向けた計画的な指導や外部講師招聘を継続し、キャリア教育の推進を図る。	A
	③ 主体的・対話的で深い学びを推進する ○公開授業と授業研究を年間2回実施する。 ○課題研究がより高度な内容に高められている。 ○課題研究発表会や学習成果発表会を開催する。	○公開授業を2回(5月/11月)、校内授業研究会(10月下旬～11月上旬)を実施し、指導力の向上を図った。 ○探究的な学習の時間についての研修を実施し、来年度に向けての準備をおこなった。 ○フューチャープロジェクトにより農家や企業との共同研究を実施した。	B	○校内授業研究会を継続実施し、教員の継続した学びを続けていく。 ○学習成果発表会は今年度初めてZOOM配信を行うことができた。今後も広く本校の学習状況を発信していく。 ○農家や企業との共同研究を継続する。	A

(3)「地域をつくる」人づくり	① 郷土・地域を理解する	○地域課題解決をテーマにした課題研究等へ取り組む。 ○ジモト大学と連携による地域課題の発見と解決に向け主体的に取り組む。	○ジモト大学「しごとーク」や「起業家教育出前授業」「山形のスペシャリストに聞くトップセミナー」「進路講話」等を通して、地域理解と働くことの意義を学ばせることができた。 ○課題研究では地域の課題解決のテーマ設定があった。「ゆめりあ鉄道創造プロジェクト」に機械電気科と環境デザイン科が協働し取り組むことができた。	B	○ジモト大学と総合的な探求の時間を関連させ、積極的な参加を働きかける。 ○地域産業及び職業特性に対する理解を深めるために地元企業の経営者等々による講話を継続実施する。	B	○幅広い活動が実践されていると思います。学生時代に経験したことが将来活かされたいと思いますので、継続して取り組んでいただきたい。 ○卒業後には、この地域、新庄最上に残る人物の育成が必要である。パートナーシップやインターンシップでの体験学習ができることに感謝をし、地元企業との連携を今後も継続していただきたい。また、そのことを大いに発信しPRに取り組んでもらいたい。
	② 郷土・地域と連携する	○PTAによる年2回の挨拶運動をおこなう。 ○PTA広報誌「神室峰」を発行（年2回）する。 ○専門学科通信「未来の風」を発行（年4回）する。 ○ホームページを50回以上更新する。 ○さくら連絡網を活用した保護者への情報提供（学年通信等）を積極的におこなう。	○PTA、青少年指導センターによるあいさつ運動に積極的な参加をいただき、身だしなみやあいさつの現状について好評をいただいた。 ○PTA広報誌、専門学科広報誌「未来の風」を予定通り発行できた。 ○小中高連携事業で地域の小中学校への出前授業等を18回実施した。 ○HP掲載についての職員研修をおこなった。	B	○生徒と保護者の関わりをさらに深めるためにあいさつ運動を継続実施する。 ○地域の課題を主体的に捉え、生徒たちにとって活動しやすく意義ある探求活動にするため外部との連携を深めていく。 ○HPや各種広報誌を発行し、本校の取り組みを広くPRする。	B	○今後も地元企業との連携・商品開発等を継続して実施して欲しい。 ○地域の催し物への参加や積極的な挨拶等による当校の認知度や印象の向上につながる。
	③ 郷土・地域産業に貢献する	○地域で活躍する社会人を招聘した講話を実施する。 ○地域や企業等との協働の課題研究に取り組む。	○本校卒業生で地元への就職者を招聘し地元企業の理解と就職への意識向上を図った。 ○職員の地元企業研修を実施し地元企業の理解を図った。 ○地域企業の協力のもと現場見学や課題研究を実施できた。	B	○地域の企業と連携し、地元企業の理解と地元定着への意識向上を図る。 ○地域の企業や自治体と連携した商品開発や研究開発を、実用化・商品化を目指し継続して取り組む。	A	
(4)「学校経営全般」	① 魅力ある学校づくり	○ICTを活用した新しい学びを実践する ○令和6年度の商業科新設にむけて新たな学びを創出する。 ○学科の魅力を発信する。 ○特別活動の充実を図る。	○校内ICT研修会および校内授業研究会においてICTの活用を題材にした授業の実施を進めるなど、ICTを活用した授業実践に関する理解を校内でふかめることができた。 ○商業科新設に伴い、新たに整備された施設や新教育課程への、スムーズな移行のための準備をおこなった。 ○学校説明会のほか、今年度より個別相談課を実施することで、受験生に対してきめ細やかな対応に取り組むことができた。	B	○デジタルコンテンツを活用した教材作成や取り組みせ方の研究を継続して行い、日々授業改善に努めていく。 ○商業科の新設に伴い、農工商の学科横断的な学習活動の取り組みを目指す。 ○学校説明会や個別相談課を継続実施し、受験生への本校への理解を図る。	B	○少子化で生徒数が減少したとしても産業高校であること継続して発信してもらいたい。来年度は商業科1年目でもあり、大いに情報発信をおこなって欲しい。 ○高校卒業後に社会に馴染むまで時間がかかることや仕事に対する責任感、忍耐が必要であることを卒業生が働いている姿を紹介したり話を聞かせたりすることで理解を深めさせ、将来についての意識を醸成させてもらいたい。
	② 次代に向けた学校づくり	○企業との共同研究により先端的な専門技術を主体的に身に付けようとしている ○令和6年度の商業科新設による新教育課程にむけた体制が確立されている	○フューチャープロジェクトと関連付け、企業と連携した研修を行うことができた。 ○令和6年度からの総合的な探究の時間の実施にむけて、教務部・探究推進委員会で準備を行った。	B	○企業と連携した研修の継続実施 ○「総合的な探究の時間」の1年次におけるスムーズな実施と2年次の内容に関する検討をおこなう。	B	○高校進学において私学を選ぶ傾向が強くなっている。選ばれる学校になるための環境づくりや魅力づくりが必要である。 ○テスト時に、先生によってチャイムが鳴ってから配布する人や事前に配布する人などまちまちであるとのこと。ぜひ統一してもらいたい。
	③ 個に応じた教育支援体制を充実	○ABC委員会の開催と、適時のケース検討会を開催する。 ○生徒・保護者との面談を実施し、長期欠席者と進路変更者の絶無を目指す。 ○ICTを活用した個別最適な授業の実践を目指す。	○支援を必要とする生徒や、心身の不調を抱えている生徒について、保護者や保健室の先生方やSCと情報を共有し早期の対応に努めたが、進路変更者をゼロにはできなかった。 ○ICTを活用した個別最適な授業の実践には至らなかった。	B	○個々に応じた支援内容を、ABC委員会やケース検討会で相談、情報共有を行い組織的に対応していく。 ○長期欠席者と進路変更者の絶無を目指すし、各分掌と連携し対応していく。 ○ICTを活用した個別最適な授業の実践を目指す。	B	○商業科新設に伴う産業教育のポテンシャルをぜひアピールして欲しい。 ○学びの土台づくりへの取り組みは評価できる。今後もきめ細やかな取り組みをお願いします。 ○生徒からの意見、保護者の要望等を募り、時代や実情に即した校則の見直しが必要と考えます。
	④ 生徒・教職員一人一人の多様な幸せとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイング(Wellbeing)の理念の実現を推進	○健康診断における精検受診率100%を目指す。 ○ICT活用スキルの向上を目指した研修会を開催する。 ○会議資料の事前配布や会議の紙面開催、ICTの活用により業務の効率化を図る。 ○組織の体制と事業を見直し、業務のスリム化を図る。 ○避難訓練及び安否確認訓練を実施する。	○精検受診100%を達成できなかった。 ○会議資料を電子ファイル化し、ICTを活用による業務削減を図った。 ○分掌の構成を見直し業務の改善を図ったが業務のスリム化には至らなかった。 ○避難訓練や大規模災害を想定した安否確認を実施し自助の姿勢を意識させることができた。	B	○火災や地震等への備えを確実に実施する。 ○精検受診100%、時間外月80時間超ゼロを目指す。 ○業務内容や体制を見直し、働き方改革を進める。	B	